

向上訓練と「標準的な作業」

——“ねらいどころ”と“目安”の作業分析——

研究担当者

基礎研究部 小原哲郎
訓練需要研究室

序

当研究センターでは、在職者の職業能力開発、生涯訓練の一翼を担うものとしての向上訓練の可能性に注目し、さまざまな角度から研究に取り組んできているところである。向上訓練の特質は、何と云っても、その多様さにあり、それがまた向上訓練というもののむずかしさにもつながっていると言える。この多様さとは、めざましい技術変化の中で、業種、職種に応じ、また地域の実情に即して、テーマをしぼって計画、実施されなければならないというばかりではない。「職業能力の向上」ということ自体が、新技術の習得、自己の職能のより高度な領域の習得、原理的理解を深めることや自己流の矯正といった具合に、多様な意味あいを持つのであり、そうしたさまざまな意味あいに応じても向上訓練は多様にならざるをえないのである。

このような向上訓練が在職者職業能力開発に大きく貢献できるためには、多様さや目先の変化に振りまわされて、単なる断片的ノウハウの切り売りに墮してはならないし、いわば一過性の教育効果に満足していてもいけないだろう。在職者の職業能力の向上に深く、また持続的な効果を及ぼすとともに、企業の戦略や在職者個人のキャリアディベロップメントの中に位置づけられた向上訓練がめざされなければならない。ここに向上訓練というものの本当のむずかしさがあるのではないだろうか。

本報告では、このような向上訓練をめざすためのいくつかの指針を追求している。また、生産現場の技術・技能状況と噛み合った向上訓練内容を設計し実施するうえで有効と思われる、作業分析の新たな観点も提案している。教育・訓練に携わる多くの方々の御検討・御批判を賜わるようお願い申し上げます。

昭和61年5月

職業訓練研究センター所長

多賀谷 敏 夫

半自動溶接技能クリニック研究会

1. 研究委員

妹島五彦（日本電気工業会専務理事）

田中節雄（筑波大学社会科学系技官）

杉山茂嘉（石川島播磨重工業株式会社技術研究所溶接第一研究部）

神田茂雄（埼玉技能開発センター 溶接科）

細井重雄（埼玉技能開発センター 溶接科）

2. 職業訓練研究センター

戸田勝也（基礎研究部訓練適応研究室）

下山敏一（基礎研究部訓練適応研究室）

小原哲郎（基礎研究部訓練需要研究室）

訓研調査研究資料 第71号
向上訓練と「標準的な作業」
—「ねらいどころ」と「目安」の作業分析—

発行 1986年5月

発行者 職業訓練研究センター
所長 多賀谷 敏 夫
〒229 神奈川県相模原市相原1960
電話 0427-61-9911(代)
FAX 0427-61-9946

印刷 (有) 藤本 綜合 印刷
相模原市田名字首根上3039-30
電話 0427-62-9501(代)